

実施内容	ブラインドサッカー®の競技特性を活用した体験		体験領域	他者理解
日付	令和5年10月23日(月)	場所	体育館	
参加校	府中市立府中第十小学校			
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイマスク装着の児童と装着していない児童(ガイド)に分かれ、様々な体験を通じて、障害者への理解促進や、「伝える」、「聴く」といったコミュニケーションの重要性を学ぶ。アイマスクを装着し実際に障害者の感覚を体験することで、どのように伝えることが適切かを児童が自身で考え、行動に変化を促す内容となっている。</li> <li>・ブラインドサッカーの競技特性を生かして、ダイバーシティ(=多様性)について理解を深めることができるようにしている。</li> </ul>			

### 伝えたいことを正しく「伝える」活動

・インストラクターがジェスチャーで示したお題を、アイマスク装着の児童に言葉だけで伝えます。

・うまく伝わらず、思わずアイマスク装着の児童に触ってしまう場面もあり、言葉のみで伝えることの難しさを感じている様子でした。



### アイマスクを装着した状態で「歩く」活動

・ガイドがアイマスク装着の児童を、言葉や音を使って目的地まで導きます。

・アイマスクを装着して歩くことは、頭ではわかっている、いざ実践するとなると難しい様子でした。



### アイマスクを装着した状態でボールを「蹴る」活動

・アイマスク装着の児童がボールを拾い、キックをします。ガイドは一連の流れに対して情報を伝え、正確にゴールできるように促します。

・インストラクターからのアドバイスに、真剣に耳を傾けながら、ガイドの誘導に対してアイマスク装着の児童がうまく動けたときには「今の動き、よかったよ」など声掛けをする様子が見られました。



### 見える人と見えない人が「協力をする」活動

・ガイドがコーンの位置を音や声で知らせ、アイマスク装着の児童がボールをコーンに当てます。

・コーンにボールを当てるという難易度の高いゲームを、児童は、工夫して楽しむ様子が見られました。これまでの活動を生かしながら、協力して取り組んでいました。



### 参加した児童の声・反応

- ・ブラインドサッカーのボールが硬くて驚いた。(音が鳴るのが面白い)
- ・ガイド役(誘導役)だけではなく、チーム全体で声掛けをしてサポートできたことがよかった。
- ・自分がアイマスクを装着していると、相手の言っていることがあまり理解できずに困ったけど、自分が伝える側に立つと、伝えることの難しさがあった。